

IV. 市販図書の分類別使用状況

～高度化、複雑化する職業訓練において
市販図書はどのように使用されているか～

ここでは、“(2) 使用している市販図書及び利用状況（調査②）” から収集できた表4-1に示す延べ10,377冊（2,833種）の市販図書について、その使用状況を報告する。

表4-1 市販図書の回答状況

訓練科区分	回答市販図書
認定施設訓練科	174 冊
都道府県立訓練科	7,060 冊
事業団立訓練科	2,620 冊
国市立訓練科	7 冊
障害者訓練科	516 冊
計	10,377 冊

なお、使用していると回答のあった市販図書が、学科及び実技のどのような領域で使用されているかを具体的に把握するため、本編では市販図書を表4-2に示す12区分に分類して行った。

また、本編は調査②により集計を行っているが、一部、調査①の集計結果と異なる場合がある。これは、調査②ではシリーズ図書などが代表名で記載されていたり、養成訓練及び能開訓練を1枚の調査票に記載したために生じたものである。しかし、このうち、調査①における市販図書の使用冊数（11,138冊）との誤差は約3%であり、これとの関連はほぼ信頼できるとしてそのまま集計を行った。一方、これを訓練種類別に集計すると約12%の誤差が生じており、この部分の集計は省略した。

表4-2 市販図書の分類と主な図書名

区分	主な市販図書	区分	主な市販図書
① 規格・基準・法規関連	自動車整備関係法令教材(114) 電気設備技術基準(104) 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法規集(26)、 衛生法規(19)、 最新基本六法(17) 建築基準法令集(16) 他に、 J I S等各種規格書、食品成分表など延べ121種類	⑥ メカトロ技術関連	プログラム学習による制御基礎講座ルーシーケンス制御(31) 絵とき新シーケンス制御読本(25) 機械に知力をつける制御用マイコン(23) デジタル制御(19) 油圧教本(9) 他に、 図解マイクロコンピュータZ80の使い方、マイコン制御、ロボット技術、わかる半導体セミナー、デジタルIC回路の設計、トランジスタ技術、マイコン制御、インターフェイスなど延べ144種類
② 安全衛生・安全作業	ガス溶接作業の安全(464) アーク溶接等作業の安全(296) グラインダ安全必携(203) ボイラー及び圧力容器安全規則(28) 低電圧電気取扱い安全必携(26) 新入者安全衛生テキスト(25) プレス作業安全必携(22) 他に、 クレーン等安全規則、VDT作業の労働衛生実務、機械実習安全の心得など延べ30種類	⑦ 新技術関連	NC加工プログラミングと実際(6) NC旋盤作業(6) NCプログラミング入門(3) ワイヤカット放電加工技術(2) CAD/CAM(1) など延べ19種類
③ 各種資格・試験関連	3級自動車シャシ(122)、ガソリンエンジン(119) 玉掛け作業必携(67) 半自動アーク溶接技術検定試験受験の手引き(62) 液化石油ガス設備士ハンドブック(56) 第2種電気工事士教科書(54) フォークリフト運転士テキスト(54) 溶接技術検定試験受験の手引き(37) 移動式クレーンの運転(32) 他に、 ワープロ検定模擬試験問題集、検定簿記講義3級、丙種危険物取扱い者受験テキスト、パソコン検定(2,3級)模擬試験問題集、販売士検定試験ハンドブック、情報処理検定試験模擬問題集など延べ584種類	⑧ 外国語関連	就職英語の基礎(3) コンピュータ英語(1) レストランの実務英会話 他に、 ホテル・レストランの英会話入門、技術科学英語、商業英語、百貨店の英会話など延べ25種類
④ パソコン・関連	はじめて使うLotus1-2-3(9) ワープロ実習テキスト(7) らくらくワープロ操作法「新一太郎編」(5) はじめて使うdBASEIII(4) Multiplan3.1入門(4) 他に、 CANDY3入門、松86、TOP財務会計、花子V2.0などの操作手引き書延べ79種類	⑨ サイブス技術関連	ビジネス/マナー&エチケット(7) 話し方の基本と応対のしかた(4) ほけ老人の介護(3) ふれあいの心理学(2) OLマナーブック(2) 他に、 ホテルの基本サービス1~7、セールスマンの常識、接客販売技術、ホームヘルプ、家庭看護と救急辞典、接遇訓練シートつづりなど延べ42種類
⑤ 情報処理技術関連	パソコン教科書標準版(38)、PC版(31) 標準版BASIC(13) ソフトウェア概論(11) 入門MS-DOS(11) 入門COBOL(6) コンピュータ概論(6) 他に、 はじめてのC、プログラム設計、FORTRAN77、システム設計入門、データ通信システム、情報処理入門講座、システム工学、フローチャート、CASL入門、オペレーティングシステム、コンピュータ用語集など延べ273種類	⑩ 機器操作マニュアル	書院スクールテキスト(6) OASYSワープロマスターテキスト(5) トスワード講習会テキスト(2) 他に、 FANUC自動プログラミング取扱い説明書、NC旋盤取扱い説明書、カーエアコン説明書、カペラ整備書、トヨタエンジン修理書、マイクロキャダム操作手引き書、三次元測定機取扱い説明書、電装品説明書など延べ59種類
		⑪ 高校用教科書及び演習	簿記会計I(127)・II(89) 工業簿記(111) 機械製図(103) 建築設計製図(49) 建築構造(29) 商業経済I(23) 機械設計I(21) 他に、 土木製図、電気基礎A、機械工作1、情報処理IBASIC、造園、計算事務、測量、電子技術、インテリア製図、計測制御、電子機械、デザイン製図、マーケティング、カナタイプライティング、機械実習、建築実習、設備・工業製図など延べ166種類
		⑫ その他	上記の区分以外で、回答訓練科の訓練内容に概ね添った知識や実技の関連図書で、その使用が概ね当該訓練科に限定されているもの

(注) 表中の主な市販図書に続く()内の数字は、その市販図書を使用していると回答のあった訓練科数を示す。

なお、市販図書は代表的なものを抜粋したものであり、似た内容の市販図書は省略している。したがって、数字は使用順位を表すものではない。

1. 図書分類による使用状況

表4-2で示した市販図書12分類の使用状況は以下のとおりである。なお、集計の詳細は巻末資料8を参照のこと。

(1) 分類別の使用冊数

図4-1に分類別の使用冊数を示す。

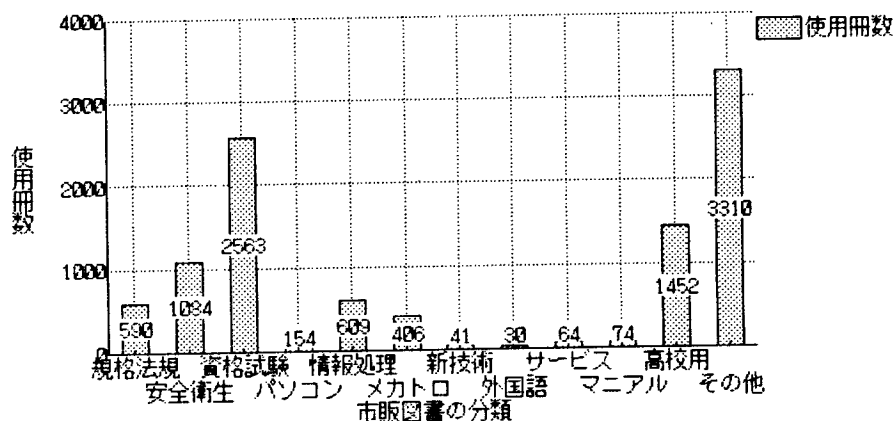


図4-1 市販図書の分類別使用冊数

これによると、その他の図書が3,310冊ともっとも多いが、これは、回答訓練科の訓練内容にその使用が概ね限られる市販図書を集計したものであり、したがって、全訓練科からの使用市販図書が累積された結果による。

その他を除く市販図書では、資格試験、高校用、安全衛生が他を抜きでた使用冊数になっている。このうち、資格試験は、自動車整備士関連図書887冊（35%）は別格であるとしても、簿記検定関連図書441件をはじめとして、その資格種類は約40種にのぼり、資格取得に関連する教科が拡大している趨勢からしても当然の結果といえる。また、高校用は、認定教科書の代替という意味あいもあり、情報処理や簿記など認定教科書の未整備な科目にその使用が集中している。安全衛生は、溶接（ガス、アーク）作業の安全760冊（70%）、グラインダ安全必携203冊の他に、わずかではあるがVDTやロボットなど新分野での安全衛生関連図書が使用されている。

上記について使用冊数が多いのは、情報処理、規格法規、メカトロである。情報処理はパソコンも含めると763冊であり、このうち、一太郎やLotus 1-2-3などソフトウェア関連図書が96冊（12.6%）、OSや言語などの関連図書が341冊（44.7%）である。規格法規は資格取得に準ずるものとして、また、メカトロもME化を反映するものとして、多くの使

用が期待されたが、全市販図書に占める割合はそれぞれ5.7%、3.9%と低い。

使用冊数が少ないのは、新技術関連、外国語関連、サービス技術関連、機器操作マニュアルである。これらは、注目される分野であるが、職業訓練への汎用性にかける面もあり、伸び悩みの状態にあると考えられる。しかし、新たな訓練内容の創出に向けてこうした分野の市販図書がより多く利用されるものと期待されるところでもある。

(2) 市販図書1種類当たりの使用冊数

市販図書1種類当たりの使用冊数を示すと図4-2のようになる。

なお、この場合の集計値は、使用冊数を図書種類で割ったものであり、市販図書1種類当たりどれほどの訓練科が使用しているかの指標を示す。

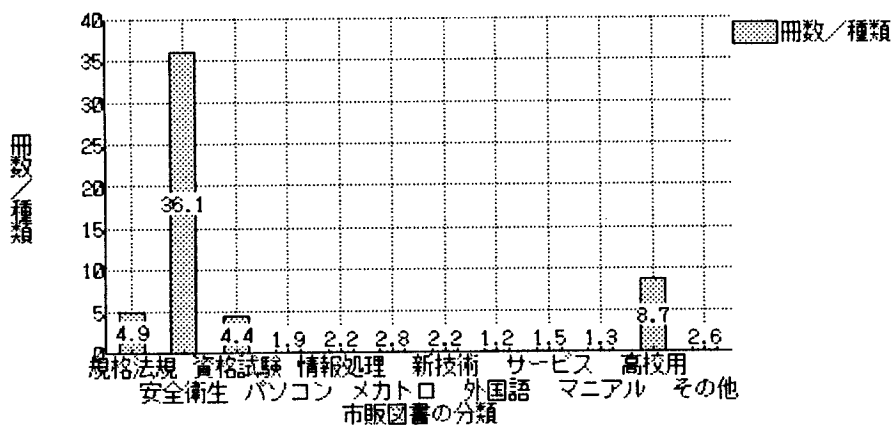


図4-2 市販図書1種類当たりの使用冊数

これによると、

その他は、図書種類(1,291種)が多い割に、1種類当たりの使用冊数は2.6冊と少ない。異職種への適応領域が狭い市販図書であること、つまり専門性の高い市販図書がこれに多く含まれていることを示している。

特徴的なのは、安全衛生と資格試験で、資格試験は種類(584種)が多い反面1種類当たりの使用冊数は4.4冊であり、安全衛生は種類(30種)が少ない反面36.1冊と他を抜きんでいる。これは、特定市販図書への集中度を示したものともいえ、安全作業への関心度の高さが図書の標準化を志向し、資格種類の多さは逆に市販図書が分散されるというように、それぞれの特徴をよく現した集計結果となっている。

高校用(166種)が1種類当たりの使用冊数8.7冊となっている。これは、事務系や情報系など認定教科書が未整備な訓練系に使用が集中しており、また、教科との整合性において対象図書の選択が比較的容易にできることがこの集計結果に反映したものと考えられる。

情報処理、メカトロ、新技術などの市販図書は、1種類当たりの使用冊数はそれぞれ2.2冊、2.8冊、2.2冊にすぎず、使用図書の分散化が著しい。良くいえば多種多彩な訓練が展開されていると解釈できるが、図書評価が普遍的でない、したがって、教科の内容が不統一になるという悪い面も考えられる。

(3) 市販図書の分類別構成

市販図書10,377冊を全訓練科で平均すると1訓練科当たり5.1冊（調査①では5.3冊）となるが、その平均的な図書構成は図4-3のようになる。

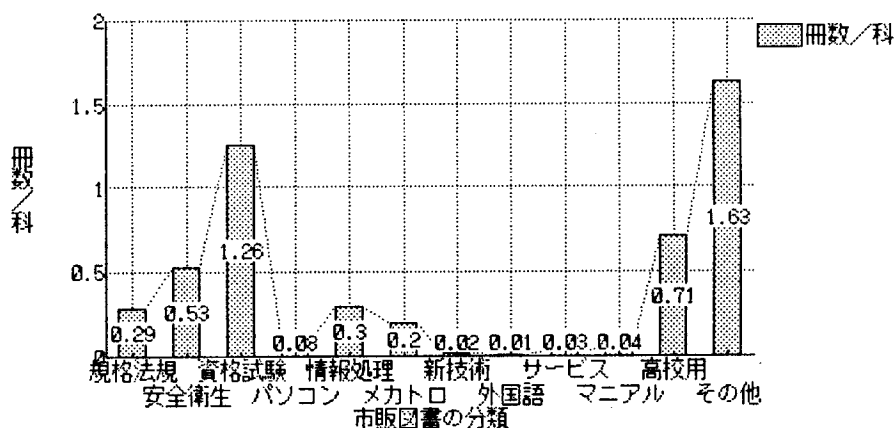


図4-3 市販図書の分類別構成

これは、図書分類別に1訓練科当たりの平均使用冊数を算出したものであるが、その他及び資格試験の関連図書は全訓練科が1～2冊使用していることになり、また、高校用(0.71冊)は工業、商業といった適用分野から判断すると当該訓練科のすべてが1冊以上を使用していることになる。安全衛生(0.53冊)も情報系、事務系などを除けばやはり全訓練科が1冊以上を使用していることになる。

したがって、その他、資格試験、高校用、安全衛生の関連図書を必需品とし、ついで、情報処理、規格法規、メカトロ関連図書を必要に応じて使用するという図書構成が一般的なようである。

ところで、養成訓練B型では高卒1年訓練が多く行われている。上記の図書構成からすると、高卒の訓練生に高校用を用いていることになる。普通科出身の訓練生が多数を占める現状にあって特に問題とする必要はないかも知れないが、工業科あるいは商業科で使用する高校用を、重複するしないに関わらず普通科高卒の訓練生が使用することは奇異であることには違いない。

(4) 市販図書の使用目的

市販図書を“主教材で使用する”または“副教材で使用する”の、使用目的に対する図書分類別の集計結果は図4-4及び図4-5のとおりである。

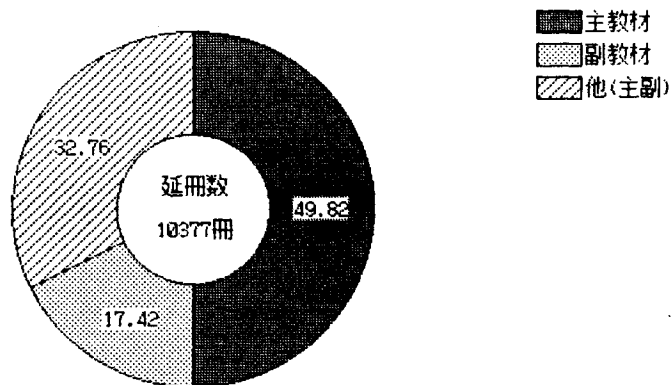


図4-4 市販図書の使用目的

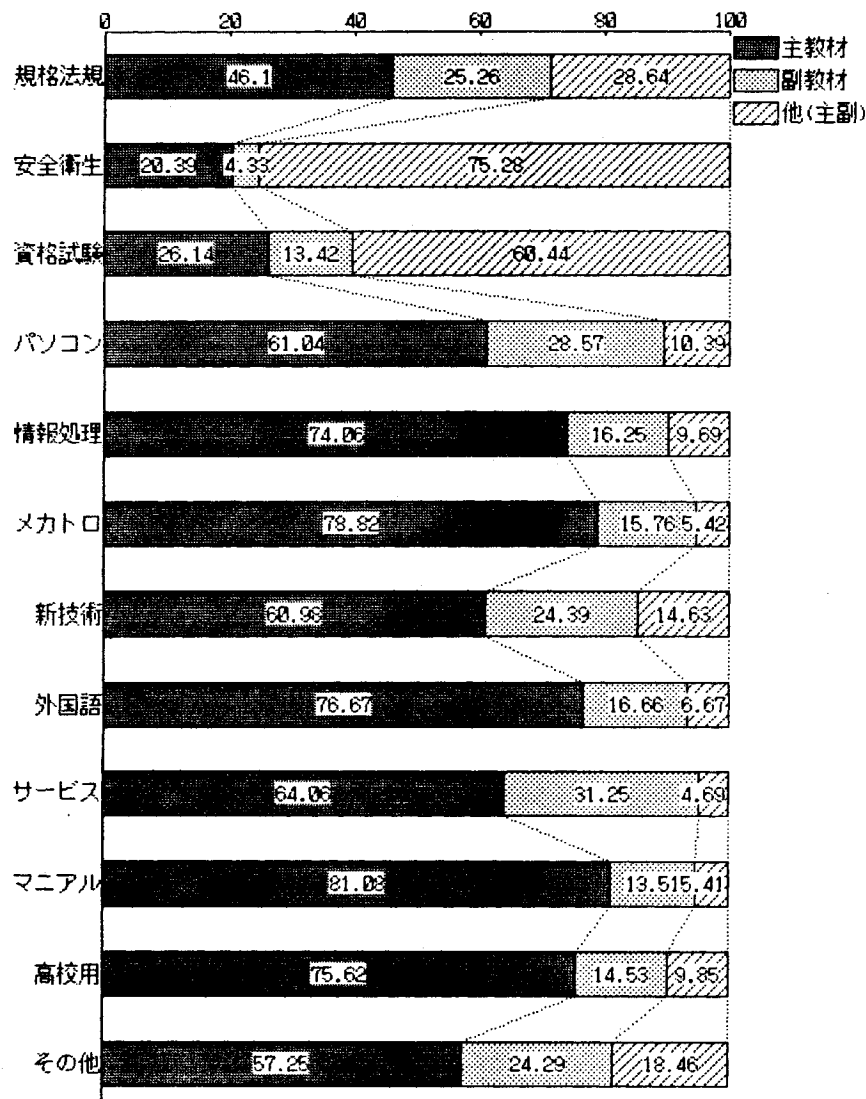


図4-5 市販図書の使用目的

調査票全体では、主教材として使用するとの回答は49.8%であるが、これを分類別にみると、主教材として使用するとの回答が多かった図書分類はマニュアル（図表中はマニュアル、本文はマニュアルとする）、高校用、メカトロ、情報処理、外国語であり、副教材として用いるとの回答が多かった図書分類は規格法規、資格試験、サービス、パソコンである。

(5) 市販図書の使用割合

使用している市販図書のページ数に対する使用割合を、図書分類別に集計した結果を図4-6及び図4-7に示す。

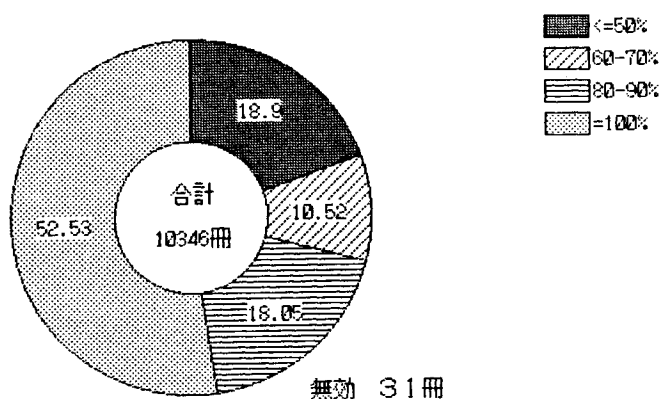


図4-6 市販図書の使用割合

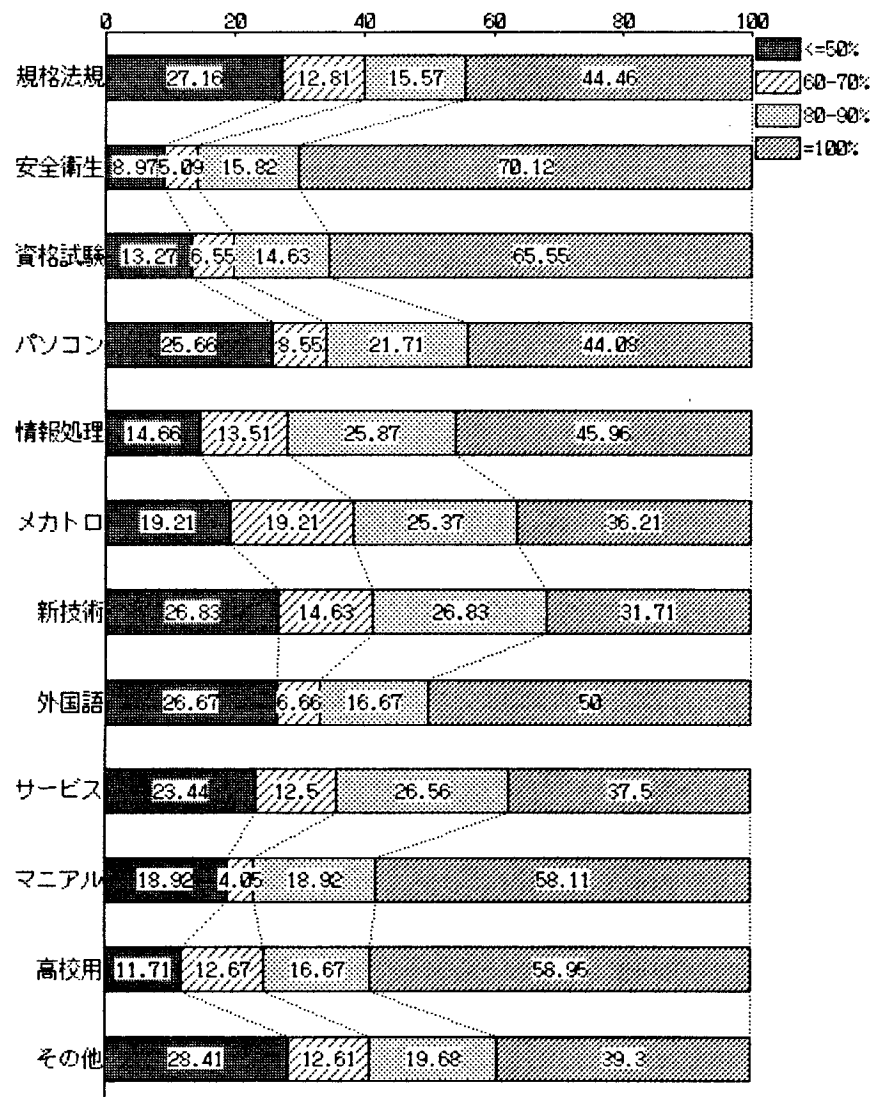


図4-7 市販図書の使用割合

全調査票では、100%使用が52.5%、80~90%が18.1%である。一方、50%以下の使用は18.9%であった。

これを分類別にみると、100%使用が多い図書分類は安全衛生、資格試験であり、50%以下の使用が多い図書分類はその他、規格法規、新技術、外国語、パソコンである。(4)で主教材として利用するとしながらも使用割合50%以下が多い図書分類もある。これは、教科目の主教材として使用する場合に強く、訓練時間との兼ね合い、内容の難易度、不要な知識項目などにより、使用部分が限られてしまったものと考えられる。

(6) 認定教科書との併用

認定教科書との併用使用か単独使用かに対する集計結果は図4-8及び図4-9のとおりである。

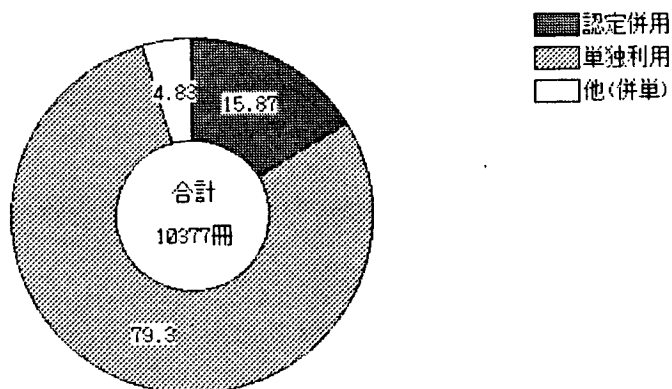


図4-8 認定教科書との併用

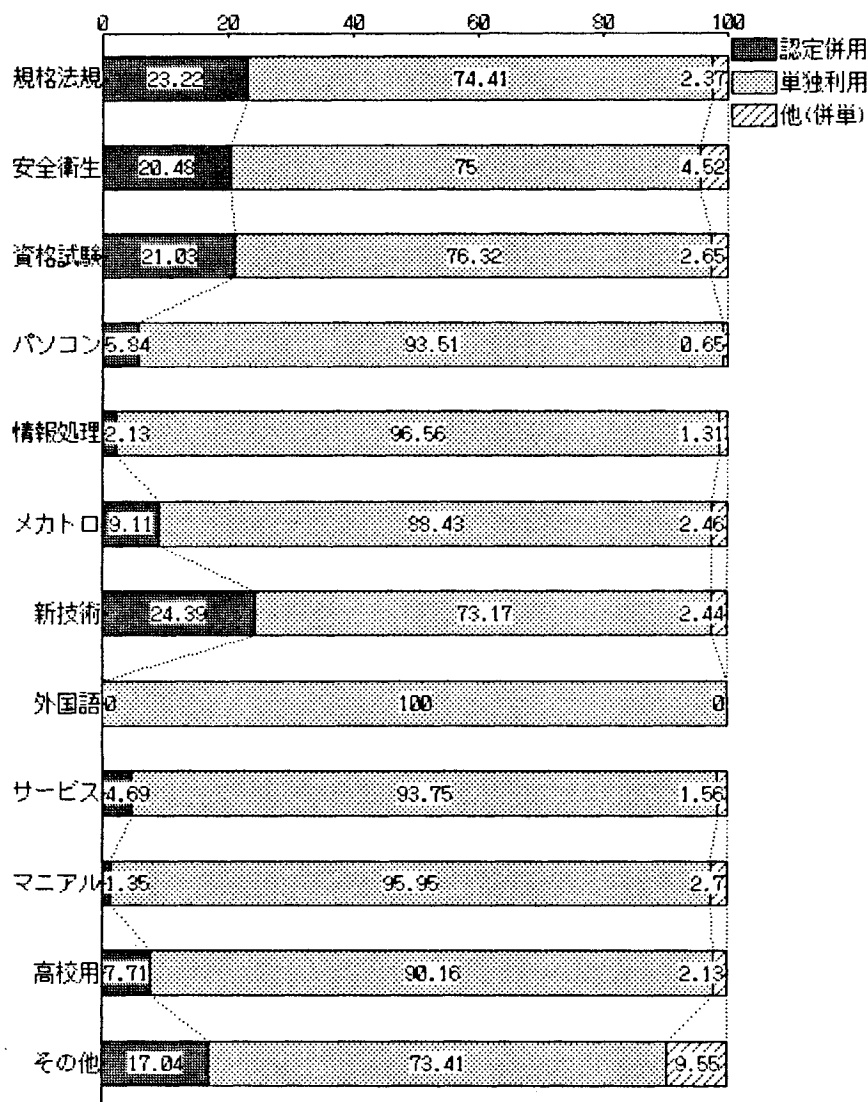


図4-9 認定教科書との併用

全調査票では、併用使用が15.9%、単独使用が79.3%と、単独使用が圧倒的に多い。

これを市販図書の分類別にみると、単独使用が多い図書分類には、パソコン、情報処理、外国語、サービス、マニュアルがあり、当然ながら相当する認定教科書がない図書分類の市販図書に単独使用が多い。なお、併用使用が多い図書分類に規格法規、安全衛生、資格試験、新技術などがあるが、全体としては単独使用の傾向にあり、市販図書を補助教材とする見方は薄れつつある。

2. 系別の市販図書使用状況

調査②による市販図書の系別使用状況は図4-10及び図4-11のようになる。

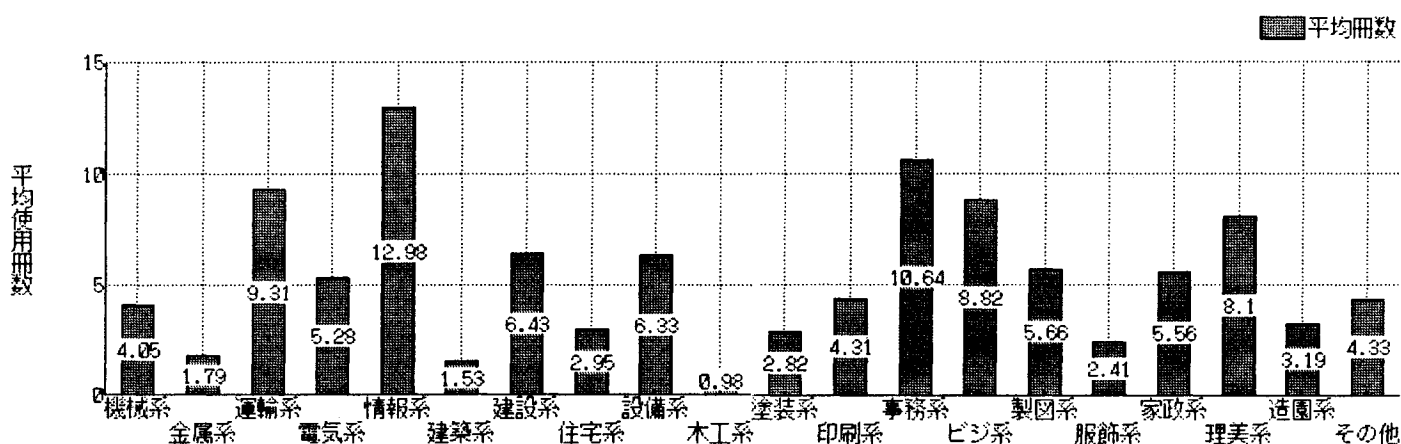


図4-10 市販図書の系別平均使用冊数

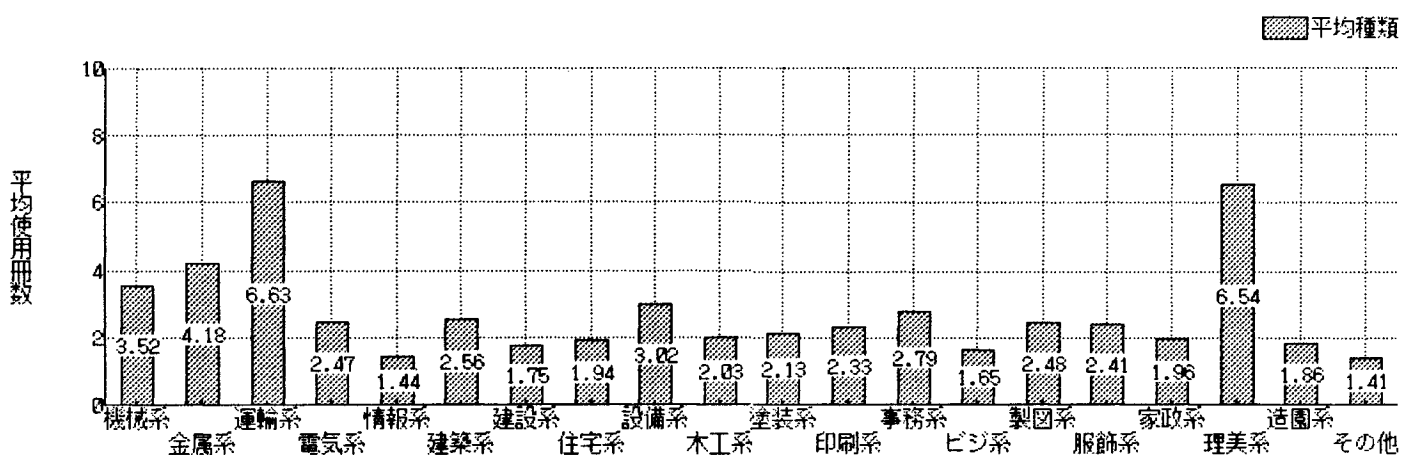


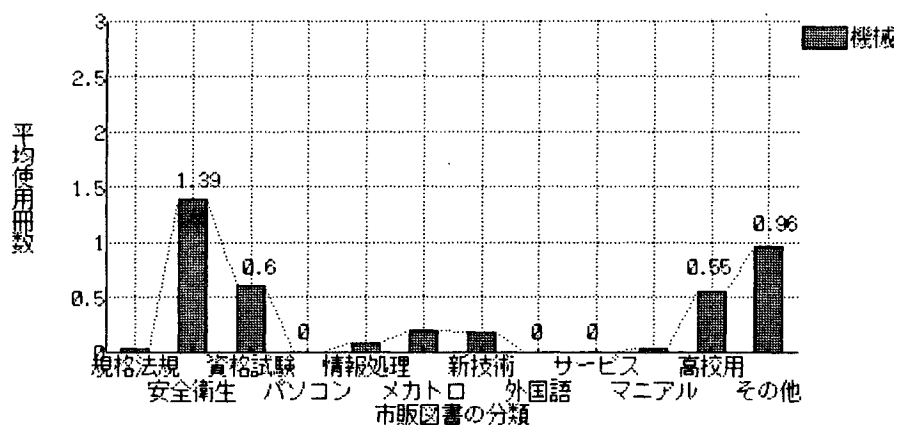
図4-11 市販図書1種類当たりの使用冊数

平均使用冊数は情報系が約13冊と最も多く、市販図書1種類当たりの使用冊数は運輸系、理美容系が約9科/種と多い。

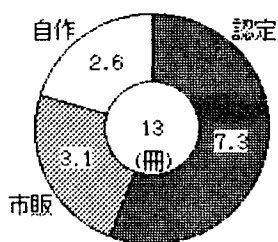
情報系では使用冊数が多いものの特定市販図書への集中度（約1.4科／種）が極めて低く、一方、運輸系、理美容系は特定の市販図書に使用が集中しているのがわかる。

ここでは、巻末資料11を参照しながら、各系における市販図書の分類別使用状況をみることにする。なお、関連する集計結果の詳細は巻末資料9、10を参照されたい。

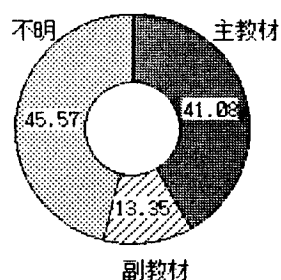
(1) 機械系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-12 機械系

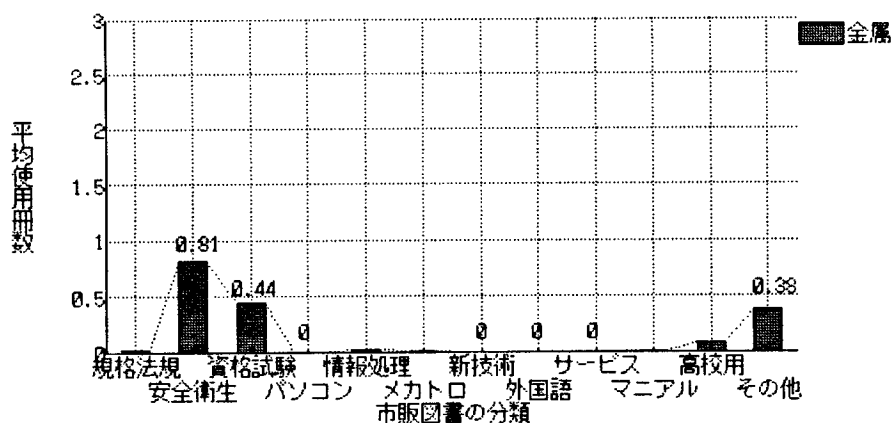
系の訓練内容に帰属するいわゆる材料力学、機械工作、機械製図などの専門図書（その他の図書）に加えて、安全衛生関連図書の使用が著しい。その主なものはガス溶接作業の安全（95）、グラインダ安全必携（70）など労働安全衛生規則にもとづく知識や作業に関連する図書である。

高校用教科書では、機械製図（47）が多く使用されているが、使用割合50%以下が8件あり、100%使用はわずかである。しかし、その演習ノートやワークブックは使用割合100%が多く、作図課題に使用効果を求めているようである。

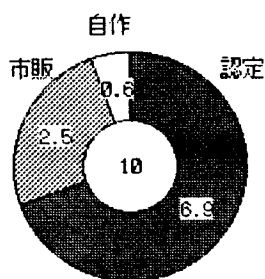
また、油空圧、シーケンス制御などのメカトロ関連図書やNC工作機械、CAD/CAMなどの新技術関連図書は、概ね1/5の訓練科が使用しているにすぎず、また、多くが使用割合50%以下となっており、期待したほどの使用状況になっていない。

認定教科書などとの構成状況をもても、認定教科書に依存する傾向が強い系であるが、自作図書が市販図書に匹敵する使用状況を示しており、認定教科書の不足を自作図書の開発作成で補っているようである。

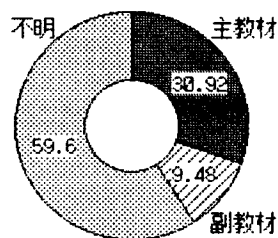
(2) 金属系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

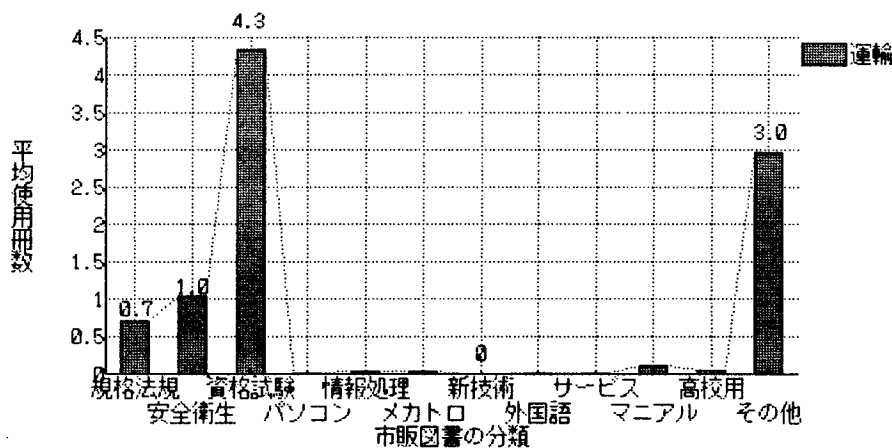
図4-13 金属系

認定教科書がよく整備されているせいか、機械系と同様に認定教科書への依存度の高い系であるが、自作図書の使用が低調な点で機械系とは異なる。両系とも養成訓練ではA型訓練の実施比率が約90%であるのに対し、能開訓練B型の実施比率では機械系82.3%、金属系47.0%と大きく異なっており、科再編及び内容再編の取り組み状況の相違が集計に反映したものと思われる。

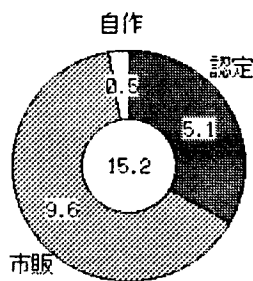
市販図書では、もっぱら、ガス溶接やアーク溶接などの資格試験や安全衛生に関連するものに使用が集中している。情報処理やメカトロ関連図書にわずかな使用実績が認められ、この分野で新たな訓練内容の創出が期待されるが、図書の種類に共通性がなく試行錯誤の状況とみられる。

なお、高校用教科書はやはり機械製図がその大半を占めている。

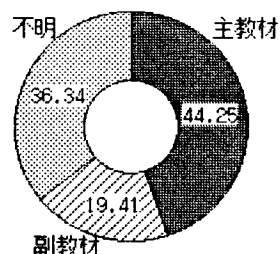
(3) 運輸系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-14 運輸系

自動車整備士（2級または3級）の資格取得を目標とする系だけに、資格試験の関連図書が他を圧倒している。ガソリンエンジン、シャシ、ジーゼルエンジンなど特定教科での使用は70%を超えており、これは、養成訓練に限ってみればほぼ100%の訓練科が使用していることになる。標準化された教材により安定した使用状況がうかがえるが、この点では、同じく資格取得をねらいとする後述の事務系とは大いに異なる。

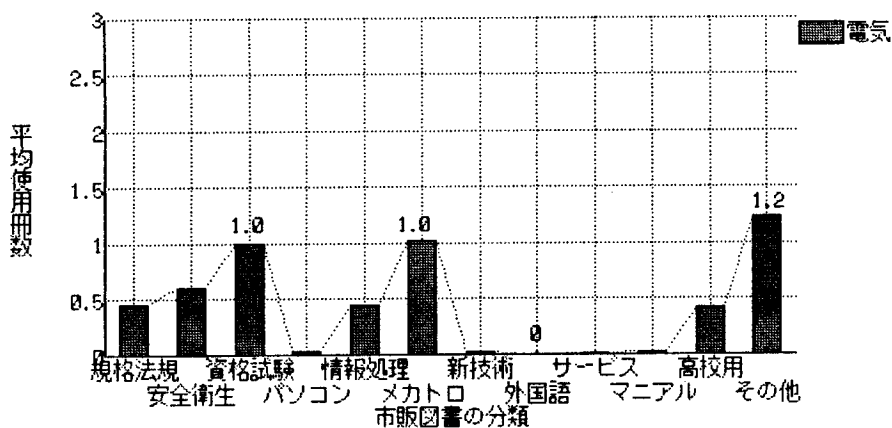
また、資格試験の関連図書では、その種類は73種に上り、フォークリフト、クレーン、

玉掛作業など資格種類は20種を超えている。この系での能開訓練、特にB型の増加がこれに拍車をかけているようである。

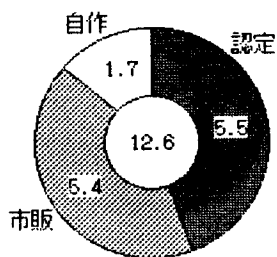
規格法規や安全衛生もほぼ全科が使用していることになるが、これらも、規格法規では自動車整備関係法令が91%、安全衛生ではガス溶接作業が59%を占めているように特定教科への使用が集中している。

以上のように、この系では市販図書の使用が活発である。しかし、認定教科書も平均で5.1冊を使用しており、使用図書教材の平均は15.2冊にもなっている。また、訓練生が負担する図書教材の購入費も養成訓練で16,809円、能開訓練で11,030円と他系に比べて高い。

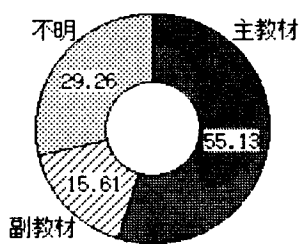
(4) 電気系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-15 電気系

この系でのその他の図書（電気関連の専門図書）とメカトロ関連図書の明確な区別はつげがたいが、シーケンス制御やマイコン制御などが多く使用されており、これらは必ずしも電気系固有の教科目ではないとの判断からメカトロに区分して集計を行っている。

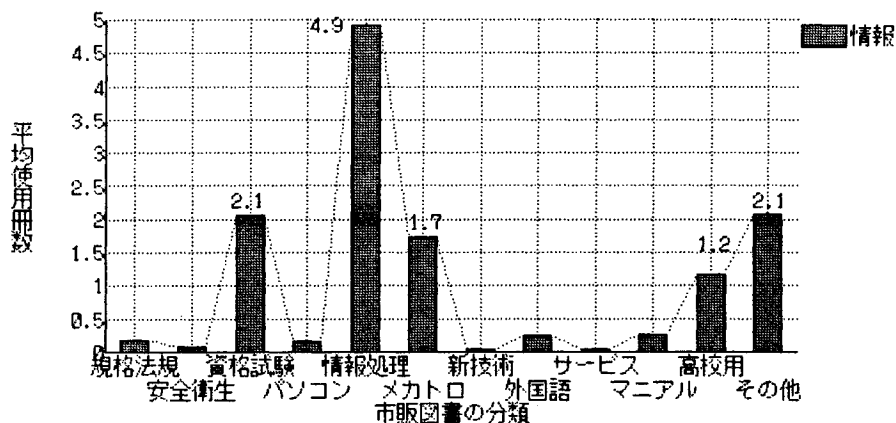
使用している市販図書に電気設備や電気工事、さらに、溶接作業などが多くみられるが、上記3系に比較すると、規格法規、安全衛生、資格試験、情報処理、メカトロなどが使用されており、一別して、さまざまな技術領域が輻輳している訓練系であることがわかる。

しかしながら、使用冊数1,268冊、図書種類513種は、市販図書1種類当たり2.5冊の使用であり、同運輸系の6.6冊のほか機械系3.5冊、金属系4.2冊にも及ばない状況にある。

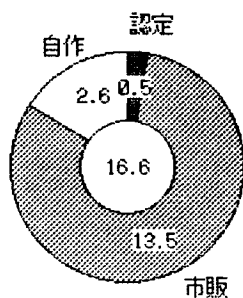
市販図書の豊富さがこの集計結果に反映したものであろうが、使用割合100%にあげられる市販図書は、そのまま、使用割合50%以下にもあげられており、いささか図書利用の不統一さを感じる使用状況である。

なお、認定教科書との組合せ状況は図のとおりであり、技術革新が著しい系にしては、認定教科書と市販図書の平均使用冊数はほとんど同じである。電気電子の基礎なくして知識・技能の高度化、多様化は図れないといったところであろうか。

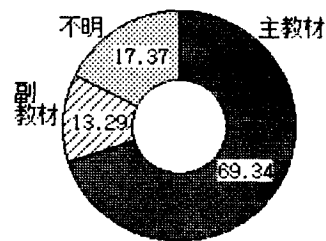
(5) 情報系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-16 情報系

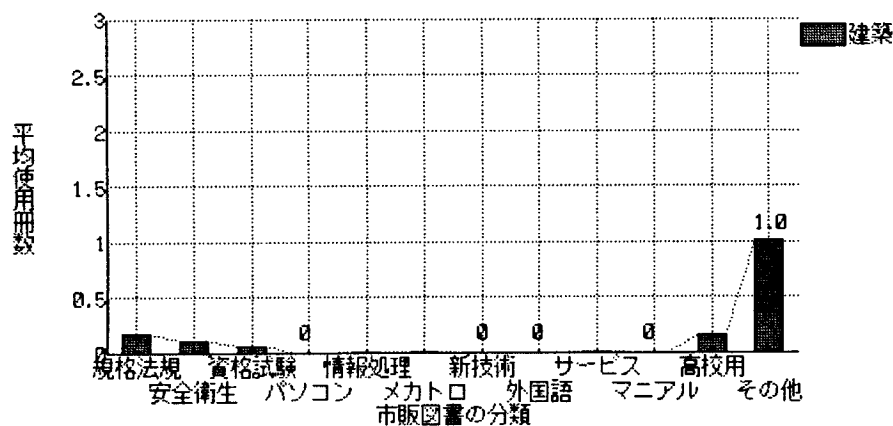
認定教科書がない系だけに、また、技術革新に代表される職種系だけに、使用している市販図書13.5冊であり群を抜いている。

分類別にみると、情報処理、その他、資格試験、メカトロの順に多く使用されており、その主な図書は、情報処理ではプログラム言語、システム設計、データ通信など、その他では電気、電子、情報及び経営などに関連する工学図書が多い。また、資格試験ではやはり2種情報処理試験の関連図書が多く、ついで、パソコン、ワープロの各検定関連図書が多い。メカトロではマイコン制御に関する市販図書が多数を占めており、これはこの系にマイコン分野の訓練科が含まれた結果とみられる。

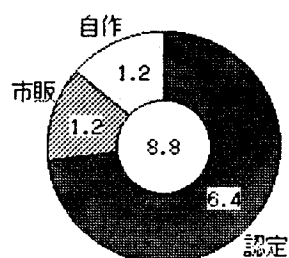
しかし、使用冊数662冊、図書種類460冊は、1種類当たりの使用冊数は1.4冊となり、電気系をさらに下回っており、使用している市販図書の分散化が著しい。

なお、高校用教科書の使用が目立っているが、情報処理の関連教科書よりも工業簿記や簿記会計など簿記関連教科書のほうが多い。帳票処理で一般的な基礎知識を学び、それらをコンピュータに移植するためのシステム設計やコンピュータ言語などでより実践的な学習をといたところであろうか。

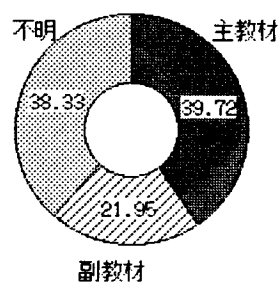
(6) 建築系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

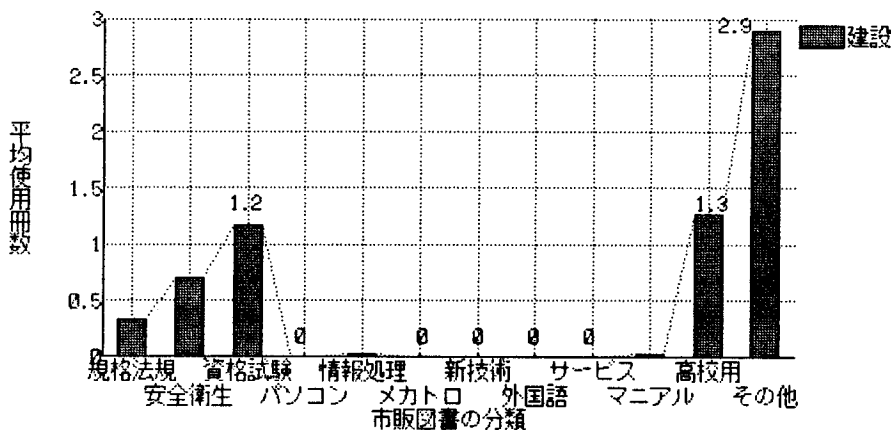
図4-17 建築系

平均的な図書教材の構成は、認定教科書6.4冊、市販図書1.2冊、自作図書1.2冊である。認定教科書がよく整備されている系であり、これが集計結果に反映したものと見られる。

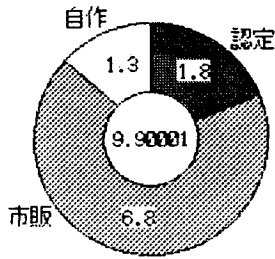
市販図書は、その他（建築関連の専門図書）の他に、規格法規、安全衛生、資格試験、高校用に使用実績がみられるが、主なものは、建築基準等関係法規、溶接、グラインダ等の安全作業あるいは資格取得に関連する図書であるが、高校用は、建築設計製図、建築計画、建築構造などが使用されている。

このうち、高校用は10種、延べ30冊の使用であり、使用している訓練科は10科に満たない状況であるが、建築設計製図は、建築系に限らず、製図系をはじめとしてさまざまな系で使用されており、その使用は延べ49科である。つまり、教科目を体系的に学習する必要がある建築系などは認定教科書を必要とし、製図系や住宅内外装系などで単独の教科目（建築製図）として使用する場合は認定教科書へのこだわりは少なくなり、高校用教科書を使用する傾向を示している。

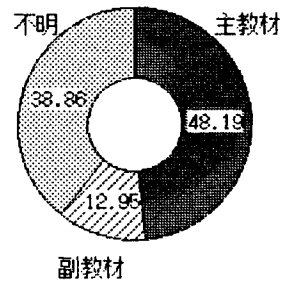
(7) 建設系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

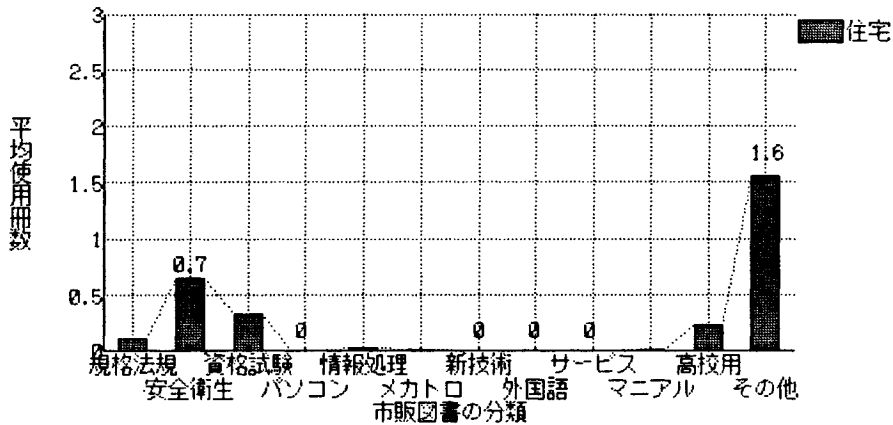
図4-18 建設系

図書構成をみると建築系とはまったく逆の構成になっている。建設、土木関係の認定教科書がないのがその一因と考えられる。

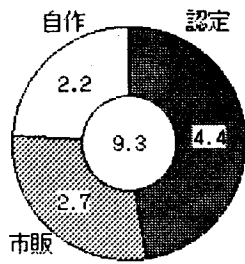
市販図書では、その他（関連の専門図書）がもっとも多く、ついで、高校用、資格試験、安全衛生の順で使用が多い。

その他ではクロソイドポケット、土木施工管理、高校用では土木施工、土木製図が、資格試験で測量土補と土木関連の図書が多く使用されているが、建築系同様に、メカトロ、新技術、サービスなどはほとんど使用されていない状況であり、訓練内容に大きな変化はみられない。

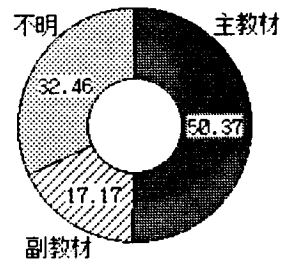
(8) 住宅内外装系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)

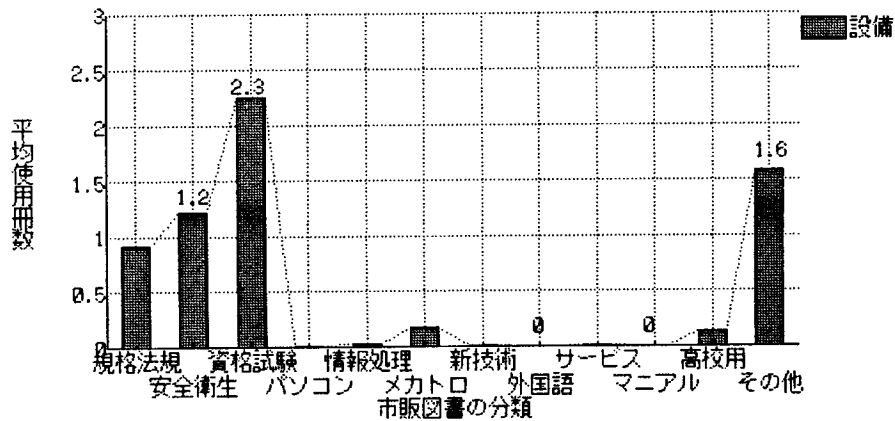


(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

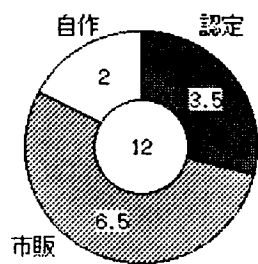
図4-19 住宅内外装系

この系の訓練実施状況をみると、養成訓練の85%がA型であり、能開訓練の78%がB型である。これを反映してか、養成訓練ではインテリア関連のその他及び高校用の市販図書利用が多く、能開訓練では認定教科書をベースに溶接、フォークリフト、有機溶剤などの安全衛生、資格試験に関連する市販図書利用が多い。認定教科書を含めた図書構成は建築系に似ているが、養成訓練と能開訓練の訓練内容の相違が市販図書利用の差につながっているようである。

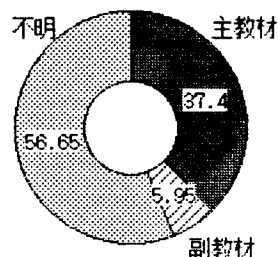
(9) 設備系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

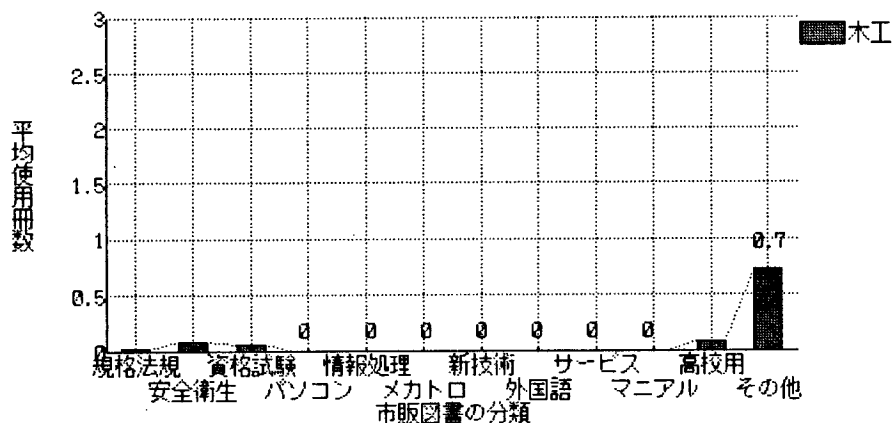
図4-20 設備系

この系の能開訓練の実施比率は66.7%であり、養成訓練を大きく上回っているが、図書教材の平均使用冊数は11.9冊と多い。

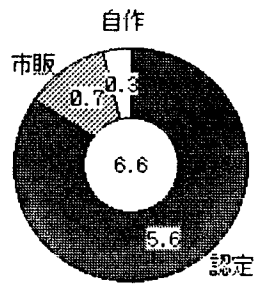
市販図書の使用冊数が多いことがこの原因になっているが、その内訳を見ると、ビルクリーニング、空調給排水、ボイラー、消防設備、液化石油ガス設備などに関連するその他、資格試験、安全衛生、規格法規が大半を占めている。特に資格試験関連図書は69種258冊であり、全市販図書の35.7%に達し、資格種類も18種を超えている。目標とする取得資格の多さが図書教材の使用冊数を引き上げているようである。

また、電気工事、電気設備、シーケンス制御などの関連図書が多く使用されており、建築系や住宅内外装系との訓練内容の違いを明らかにしているが、パソコン、情報処理、新技術の関連図書はほとんど使用しておらず、この分野での訓練が浸透していない点では、建築系、建設系、住宅内外装系に共通した傾向である。

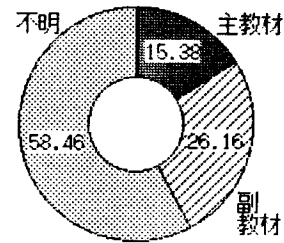
(10) 木工系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



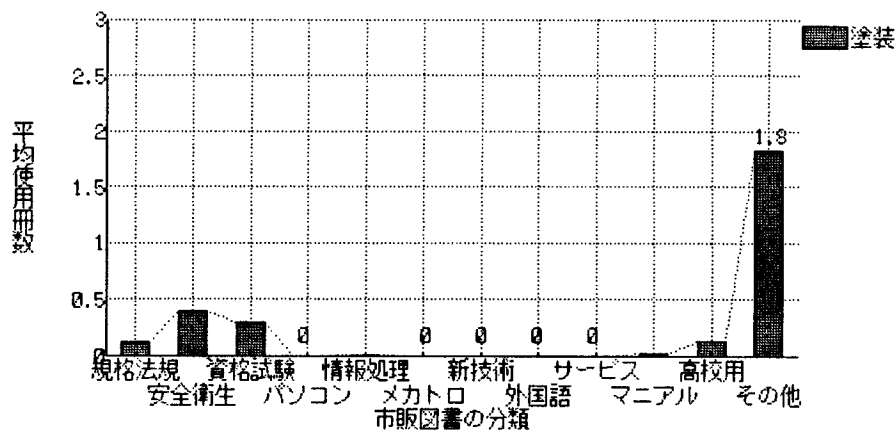
(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-21 木工系

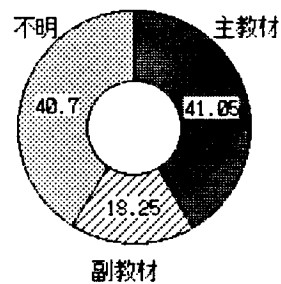
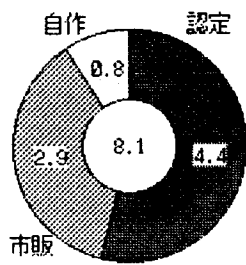
認定教科書がよく整備されているせいか、認定教科書主体の使用状況を示している。このため市販図書の使用がもっとも少ない系である。資格試験や規格法規などにあまり左右されず、系本来の技能形成に力点をおいた系と考えられる。

しかしながら、B型訓練ではインテリア、デザインなどの工芸的な技能形成への移行が目立っており、伝統工芸やデザイン関連の市販図書はかなり使用していると思われる。ただこれらはカラー刷りの高額図書と考えられ、このため共用図書で使用するとして本調査への回答が少なかったとみられる。

(1) 塗装系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)

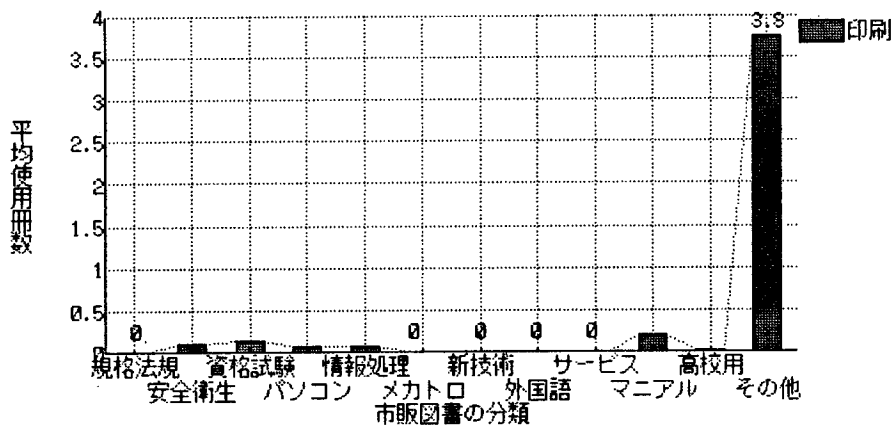
(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-22 塗装系

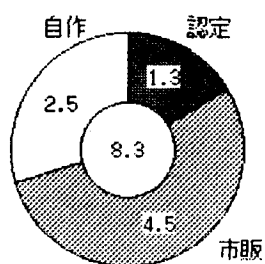
木工系同様に認定教科書が整備されている系である。したがって、認定教科書の利用が多い。木工系に比べて市販図書使用が多いのは、デザインやレタリングなどが訓練により密接しているだけに、その結果が反映したものと考えられる。

市販図書は、レタリング、デザイン、色彩などの関連図書に加え、写真植字関連図書の使用が目立つ。また、溶接作業や危険物取扱いに関する資格試験関連図書の使用も多い。高校用は、デザイン技術、商業デザイン、デザイン製図がおもに使用されているが、機械製図も同様の使用冊数となっている。従来の塗装のイメージが、デザインやアートに変化しつつあるさまがうかがえる市販図書の使用状況である。

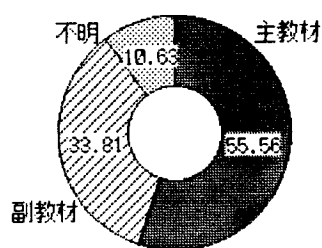
(12) 印刷系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

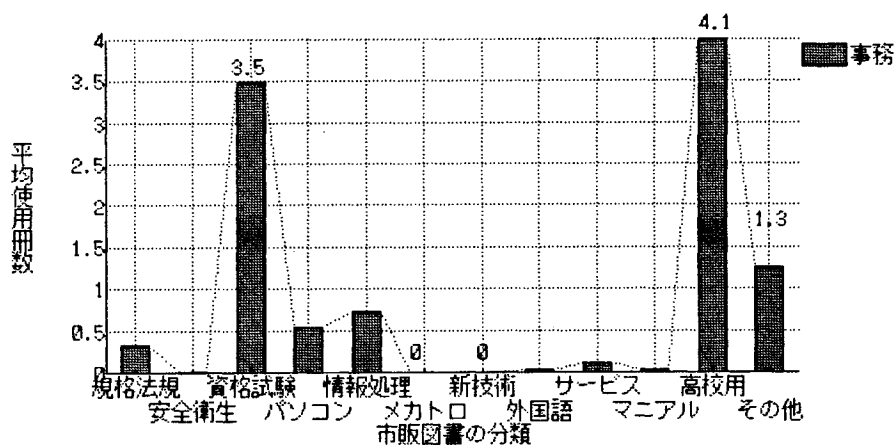
図4-23 印刷系

使用している市販図書のほとんどが、その他、すなわち系の専門分野に限られたものである。

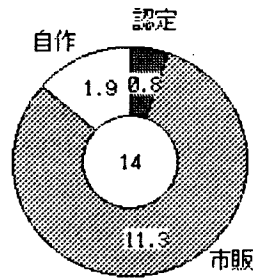
図書の種類としては、カラー製版、写植機、スキャナ、組版ルールなどが使用されているが、モリサワ、写研などの印刷機メーカーの図書教材が多いのもこの系の特徴といえる。

養成訓練は83%がA型訓練、能開訓練はB型訓練が54%であり、能開訓練でB型化が進んでいるようであるが、印刷技術の専門家育成に力点をおいているせい、DTP等による簡易印刷が人気を集めているわりにパソコンや情報処理関連の市販図書利用は少ない。

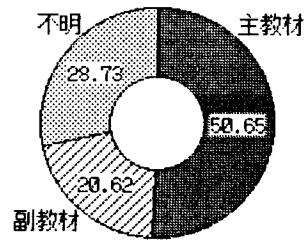
(13) 事務系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

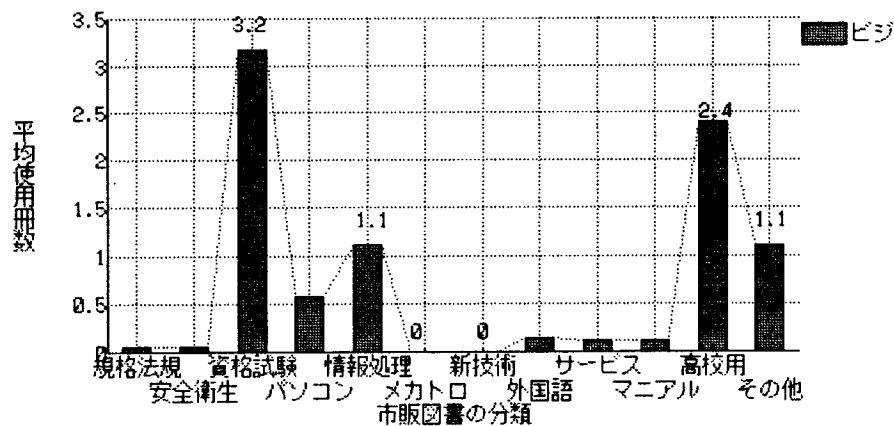
図4-24 事務系

図書教材の平均使用冊数14.0冊、このうち市販図書が11.3冊と、情報系について市販図書の使用が多い系である。

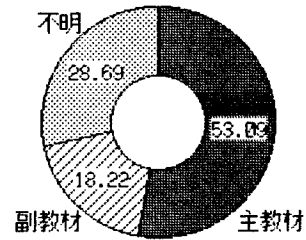
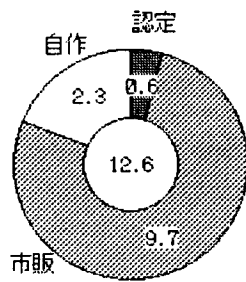
市販図書の種類は609種で1種当たり2.8冊であり、情報系の同1.4冊をやや上回っている。これは、事務系市販図書の33%をワープロ検定、簿記検定など資格試験関連図書で占めているのに対し、情報系同16%の違いが原因と見られる。訓練目標が明確な資格試験では使用する市販図書も限られてくるとの見方によるものであるが、しかしながら、運輸系の1種当たり6.6冊をはるかに下回っており、もっともよく使用されている資格試験関連図書でも10冊をわずかに超える程度である。

これに対し、高校用教科書が84種655冊は事務系市販図書の38%を占め、他系をはるかにしのぐ使用状況となっている。また、1訓練科当たりの使用冊数は4.1冊であり、まさに認定教科書同様、事務系標準教科書の感を呈した使用状況である。

(14) ビジネス系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)

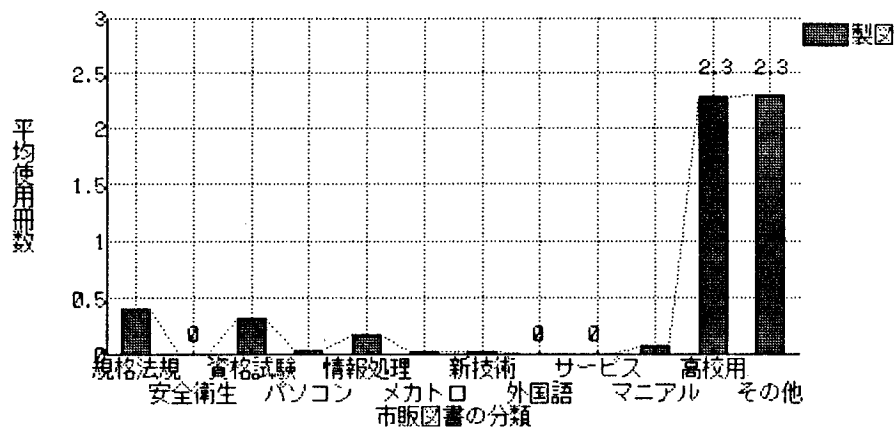
(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-25 ビジネス系

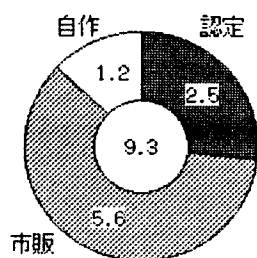
この系は能開訓練の実施比率が79%、さらに能開訓練のうちB型が81%であり、従来の事務系がビジネス系に移行している面も見られ、B型化の著しい系である。

図書構成や資格試験関連図書が大半を占める市販図書の利用状況は事務系とほとんど同じであり、販売や接客などの市販図書利用にわずかな差異が見られる程度である。

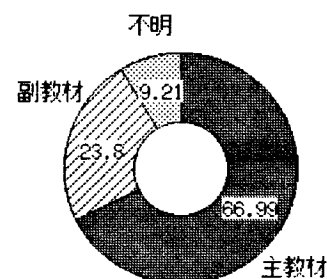
(15) 製図系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

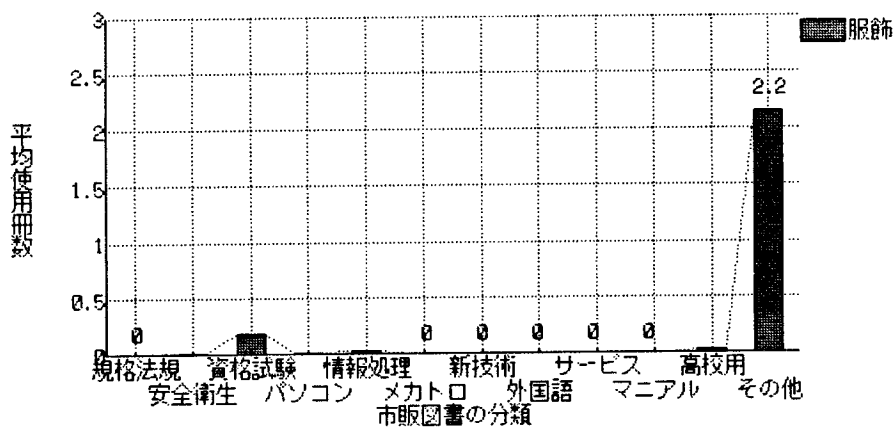
図4-26 製図系

使用している市販図書の大半を高校用教科書が占めている系である。その内訳は、機械、建築、土木などの製図教科書である。そこでは教科書と共に演習ノートを併用しており、作図課題の豊富さが好評を得ているようである。

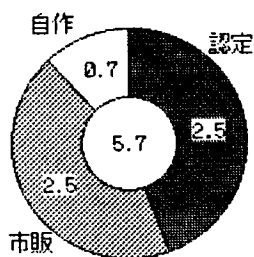
ついで多いのが、JISハンドブック、建築法規などの規格法規関連図書であるが、これらの使用割合は50%以下のものが多い。

意外なのは、新技術やマニュアルでCAD関連図書がほとんど使用されていないことである。パソコンCADをはじめとしてこの分野の訓練は盛んであると考えられるので、それらは参考書的な扱いとして本調査への回答を控えたものとも思われる。

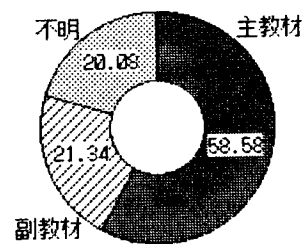
(16) 服飾系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)



(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

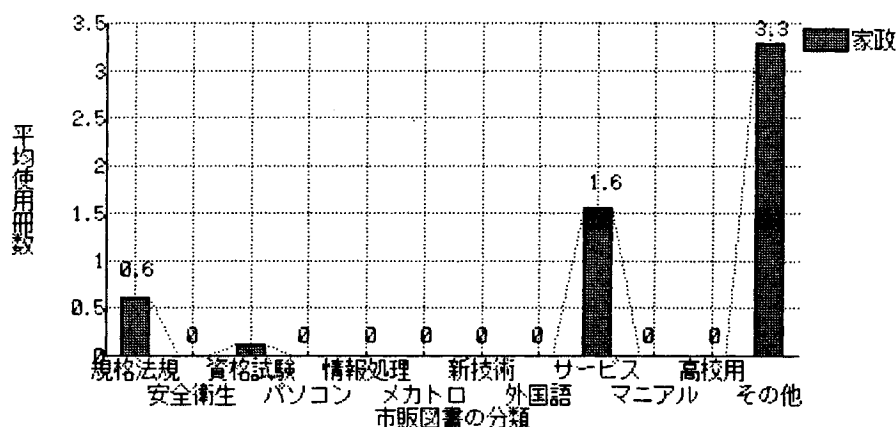
図4-27 服飾系

認定教科書と市販図書の平均使用冊数はほぼ同じである。また、使用している市販図書のほとんどはその他の図書であり、印刷系に似た利用状況となっているが、認定教科書が使用されているだけ市販図書の使用冊数は少ない。

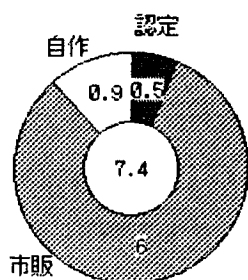
市販図書の主なものは、文化ファッション講座シリーズであり、その婦人服1及び2は39%の訓練科が使用している。これらは知識の学習と同時に実習書としても利用でき、使用割合100%の訓練科が多い。

資格試験で使用している市販図書は販売士3級検定試験関連の図書であり、資格取得に関心が高まっているようである。

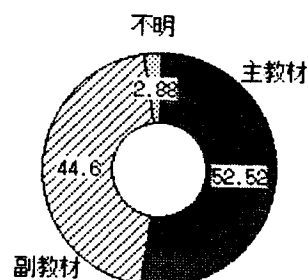
(17) 家政系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)

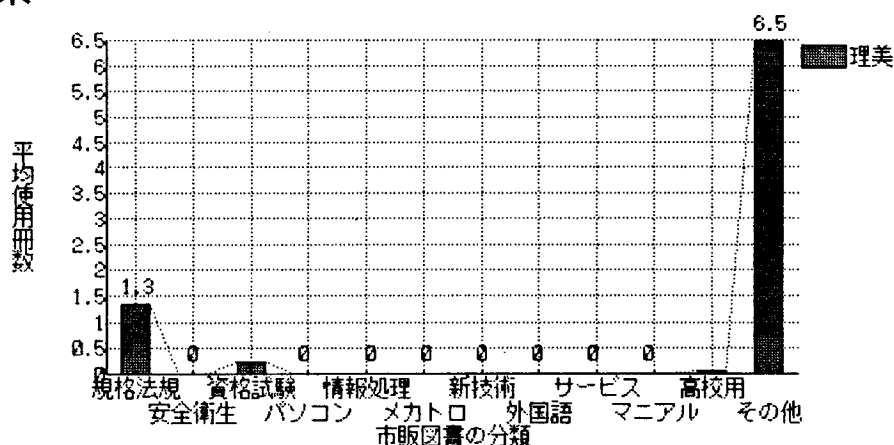


(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

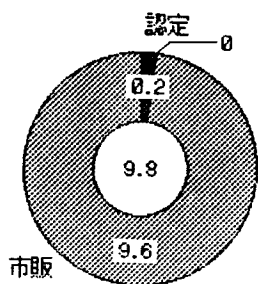
図4-28 家政系

その他及びサービス関連の市販図書利用が多く、その主なものは、ホームヘルプ、社会福祉、老人介護などに関連する市販図書であり、家事や調理の訓練から、福祉分野の訓練にその内容が移行しているさまがうかがえる使用状況である。

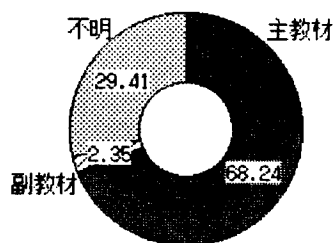
(18) 理美容系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)

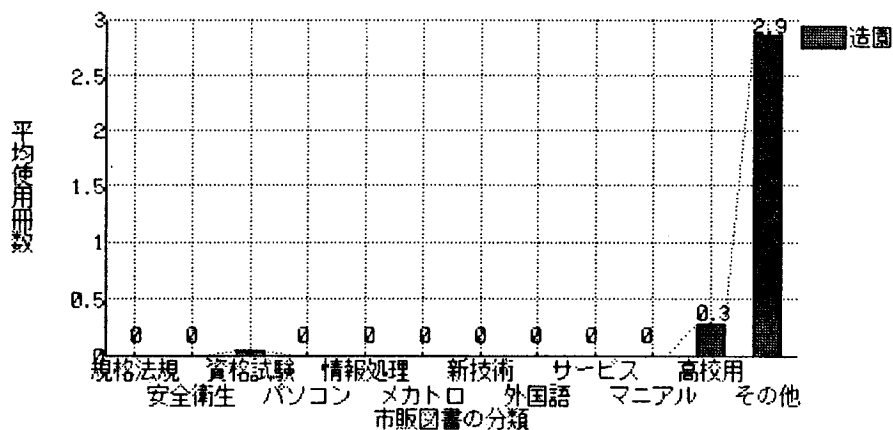


(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

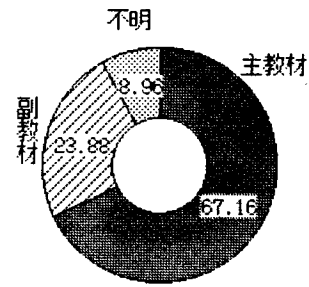
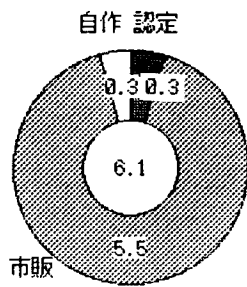
図4-29 理美容系

理容師、美容師の資格取得につながるカリキュラム編成を行う必要上、専門分野の市販図書（日本理容美容教育センター発行図書）が大半を占めている。

(19) 造園系



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)

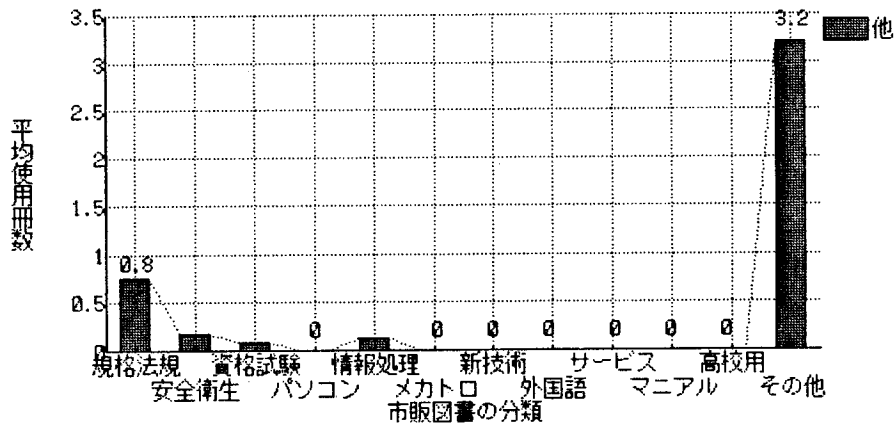
(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-30 造園系

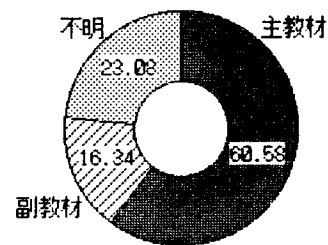
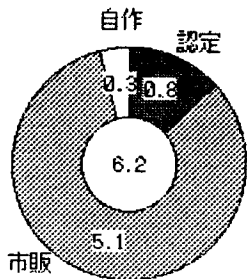
能開訓練の実施率が70%を超える系であり、認定教科書がないこともあって、市販図書中心の図書利用になっている。

使用している市販図書は、造園関連図書が大半を占めている。

(20) その他



(a) 市販図書の分類別使用状況



(b) 図書教材の構成
(単位 冊)

(c) 市販図書の使用目的
(単位 %)

図4-31 その他

これは、(1)～(19)の系に分類しえなかった訓練科の集まりであるが、いずれも認定教科書が整備されていない点で共通しており、このためその他の市販図書利用が多い。

臨床検査、環境分析は養成訓練A型だけの実施であり、基準充足市販図書利用が多い、一方、皮革製品、陶磁器、印章彫刻などの訓練科では、冊数は少ないものの業界発行の市販図書が使用されている。